

令和4年度全国学力・学習状況調査 三郷市の調査結果分析と今後の方策例

主な成果 (○) と課題 (▲) 全国差：全国平均正答率との差

中 学 校 国 語

全体の結果（正答数分布グラフ等からの分析）

- 平均正答率は、66.0%である。
- 平均正答数は、9.3問/14問であり、全国を下回る。※全国9.7問/14問
- 市の平均正答率は、全国差-3.0%である。

学習指導要領の内容、評価の観点、問題形式別結果

- 学習指導要領の内容「知識及び技能」「(2)情報の扱い方に関する事項」では、全国差+2.7%である。
- 評価の観点「思考・判断・表現」では、全国差-0.3%である。
- 問題形式「記述式」では、全国差+1.3%である。

問題別結果（正答率、無回答率からの分析）

- 2**-三「自分の考えが伝わる文章になるように、根拠を明確にして書く」では、全国差+2.7%である。
- 1**-三「自分の考えが分かりやすく伝わるように表現を工夫して話す」では、全国差+1.6%である。
- ▲**3**-一「表現の技法について理解する」では、全国差-12.5%である。
- ▲**2**-二-②「文脈に即して漢字を正しく書く」では、全国差-6.9%である。
- ▲市の平均無回答率は4.4%であり、全国の平均無回答率4.3%を上回る。

今後の方策例（※**3**-（1）を例に）

「表現の技法について理解しているかどうかをみる」

令和4年度 全国学力・学習状況調査報告書（国立教育政策研究所）より

表現の技法については、小学校での学習を踏まえ、中学校では、それぞれの表現の技法が「比喩」や「反復」などの名称で呼ばれていることと結び付けて、その意味や用法とともに理解し、話や文章の中で使うことが求められています。留意したいのが、表現の技法の名称と用法の暗記にとどまらず、その表現の技法がどのような特徴をもつのかを理解することで、表現の技法についての知識を使えるものにする事です。

例えば、次のような比喩の種類について整理する学習活動を、文学的な文章を読む学習の学習過程に位置付けたり、読み終えた文章を用いて取り上げて指導したりすることが考えられます。



教師

比喩表現には「直喩」、「隠喩」、「擬人法」などの種類がありましたね。「少年の日の思い出」から比喩表現を取り出して、分類してみましょう。それぞれ、表現の仕方によどのような特徴がありますか。